

# みの～れは「家族」みたいなものです♪

平山さんがみの～れに足を運ぶようになったきっかけを話してくれました。「今は21歳になる双子（男の子と女の子）の子が、小学生の頃にピアノの発表会で時々みの～れに来る予定がありました。6年前には、ハミングバードというコーラスグループに入り、昨年11月に15歳の記念公演をしましたが、団体ではひよっこだった私が代表をしていたので、1年間はみの～れの場所を取ることが大変でした。でも、みの～れに来ると館の人たちが快く対応してくれて『不安な事があったら解消するために何でも言うてください』と言ってもらえたことが嬉しかったですね。発表会が終わった時のやりきった感動は忘れられません。昨年のたまたまキャンダルを作るイベントでは、卵の殻を持ってみの～れに来たり、イベント当日は息子とキャンダル作りに参加したところ、茨城新聞に写真が載ったんですよ」と平山さん。

平山さんの趣味はガーデニング。

## 大好きなみの～れで 新たなチャレンジ！

新緑が眩しい季節になりました。柔らかな葉に吹く風が爽やかですね。水田に植えられた早苗が日に日にしっかりと根付き、水鏡に映った青空や木々を見られるのもこの時期です。また、バラの優しい香りに誘われて散歩をするのも楽しいですね。今回は四季文化館企画実行委員で銚田市にお住まいの平山千秋さん取材します。



四季文化館（みの～れ）  
企画実行委員

ひらやま ちあき  
**平山 千秋** さん

「できることは何でもやってみる！その中で色々な人との出会いがあるのが嬉しい」と笑顔で語る平山さん。

みの～れと共に生活するスタイル  
**Minole Life**  
のすすめ

「子どもが通う保育園で、園庭の花壇の手入れのお手伝いをしていました。小学生になった時には、学校に寄せ植えを1つプレゼントしました。翌年、花壇の手入れのアドバイスをしてもらえませんか？と声がかかり、私が好きに使っていい花壇を一ついただいたので、花壇作りに励みました。保健室の前にはハーブの花壇を作って、ハーブの優しい香りや色鮮やかな花々が、子ども達や審査員の目に留まったんでしょうね。茨城県の花壇コンクールで一番大きな賞をいただきました。子どもが保育園から高校に通っている間、花壇のボランティアをずっとやっていました。花壇の手入れをすることは私にとつて、とてもリラックスする場所でした。たまたま北浦のほとりを散歩していた時、私に花壇を作るきっかけをくれた先生に15年ぶりに出会うとても感動しました。また、家庭教育学級のお手伝いもしていて、小学校のトイレや廊下に生花を飾っていました。子ども達が清掃をしている時間に花を飾りませんか？とお母さん達に声をかけて子ども達に花を活

けている姿を見せました。夏は生花が傷みやすいので和紙で創った物を飾るようにしています。ずっと続けていきたいですね」と微笑む平山さん。

「20年余り学校に関わるようになって、子ども達との関わりで感動をもらったり、歌を歌ったり、花壇の手入れをしたり。それから、みの～れでもコンサートをしたことのある歌手の磯山純さんと4年半前に出逢って彼の一生懸命さに魅かれました。彼を応援していれば人として自分のステージも上がるような気がします。みの～れはワークシヨップ等もたくさんあって興味があることがとても多い場所です。今回、四季文化館企画実行委員になって、みの～れの素晴らしいところを内側から見てみたいと思います。大げさかもしれませんが、みの～れは家族に近い感じかな？とにかく居心地がいい。常に新しい物を見せてくれる場所：企画実行委員の2年間に今はわくわくしています」と話す平山さんからわくわく感が伝わってきました。